



# 羽合小学校 学校通信

平成26年6月27日 NO, 53

## 公 (おおやけ) と私 (わたし)

赤ちゃんは好きなときに眠り、好きなときに起き、お腹がすいたときに泣き、好きなときにおしっこをしてお母さんやお父さんの都合を考えることはありません。「100%わたし」の時間を過ごしていきます。少し大きくなると「無敵のわたし」になっていきます。よく子どもたちが戦隊もののドラマをまねして遊んでいますが「ぼくは「〇〇レッド」だー！」となりきって遊んでいる時期の子どもたちは、不死身で空も飛べるし何でもかなう「無敵のわたし」なのです。

もう少し大きくなるとだんだん自分を客観的に捉えられるようになります。実は空を飛ぶことはできないと言うことが分かってきたりします。自分を見つめることができるようになります。また、まわりを見つめることも始まります。この時期になると将来の夢は〇〇レッドからサッカーの選手だとか看護師さんといった現実の具体的なもの変わっていきます。「みつめるわたし」とでも言えるでしょうか。

「100%わたし」や「無敵のわたし」の時代は、お父さんやお母さん、家族に見守られて愛情を一身にうけて成長していきます。そのあとに訪れる「自分を見つめる」時代に、自分を肯定的に見ていくことができるかどうかは、その前の時代に肯定的に見守られてきたかどうか

が大きく影響します。言葉を換えれば、褒めたり認められた経験が子どもたちを肯定的に自分を見つめることができる人にするのです。だから「ほめて伸ばす」ことが大切なのです。

小学生の時期は「無敵のわたし」から「みつめるわたし」へ変わっていく時代です。いつまでも「無敵のわたし」でいるわけにはいきません。客観的に自分を見て、自分とは何なのかというだけでなく、自分はみんなからどのように見えているか、みんなにどのように関わっていけばよいのかということも考えなければいけません。そんな「みつめるわたし」の時代に必要なことは、それまで(その後も大事なのですが)に経験してきた自分を肯定的に見るという視点と「みんなのために」という視点です。その視点を明確に持つために、家族や学級、学校、地域など「おおやけ」に積極的に関わらせ、ほめて伸ばすように心がけたいものです。あいさつやマナーへ取り組ませることは、この時期の子どもたちだからこそ大切なのだと思います。

電車の中などで化粧をして平気な女性が多くなっていることが話題になって久しいのですが、みんなからどう見えているかといった意識も時代と共に変わっているのかもしれませんが、しかし、「はずかしいこと」恥を知る事は日本の文化の根底にあるものです。

【34% よろしくお願ひします】 街頭指導ノートの提出ありがとうございます。前回あいさつの集計で、あいさつに〇のついていた数は全体の34%でした。今回も34%です。生活に慣れてきてだんだん数値が落ちるのではないかと危惧していましたが34%堅持ありがとうございます。今年はいっみんな60%を目指しましょう！よろしくお願ひします。

羽合小 寺谷英則